

川端経営労務事務所 社会保険労務士 川端 努

〒540-0012

大阪市中央区谷町 2 丁目 5 番 4 号 ラドルビル 5F

TEL 06-6945-5518 / FAX 06-6945-5087

URL <http://roumu-support.com>

E-mail [t-kawabata@roumu-support.com](mailto:t-kawabata@roumu-support.com)

メルマガ『忙しい中小企業経営者のための「ざっくり」知ろう！労働法』

<http://www.mag2.com/m/0001090720.html>



## 低い日本における女性の就業率

### ◆日本は 30 カ国中 29 位

政府は、2010 年版「男女共同参画白書」を公表しました。この白書によれば、高校以上で教育を受けた女性が仕事に就いている割合が、日本は OECD (経済協力開発機構) 加盟国の 30 カ国中 29 位だったそうです。

日本は 66.1% で 1999 年に比べて 4.7 ポイント上昇しましたが、OECD 全体の平均値である 79.5% を大きく下回っており、学歴・能力があっても社会の中で活かす機会が少なく、受け皿が不十分である実態が指摘されています。

なお、上位からノルウェー (88.8%)、スウェーデン (88.0%)、イギリス (85.8%) と続いており、最下位は韓国 (61.2%) でした。

### ◆十分活かされない女性の能力

白書では、「高等教育によって形成された女性の能力が、日本では就業の形で十分に生かされていない」と指摘されており、仕事に就いていたとしても、結婚・出産などを機に退職する女性が非常に多いとみえています。

この他、男女の給与に格差があることも女性の就労を妨げている一因だと指摘しています。「女性全体の賃金総額が男性の 4 割弱と試算されること」、「賃金単価や就業時間、就業者数のいずれも男性の 7 割程度にとどまっていること」は、先進国では最低レベルと言われており、勤続年数や役職を男性と同じレベルにまで高める必要性があるとしています。

### ◆潜在力を活かす取組みが必要

今後の対策としては、「女性の能力を高め、それを発揮できる環境整備を進めていく必要がある」としており、仕事と子育てが両立できる就業環境の整備、理工系の分野における女性の活躍の機会を増やしていく必要性が指摘されています。

また、結婚や子育てに伴う退職が減少すれば、最大で 445 万人の労働力の増加につながるとの試算もされています。

### ◆「M 字カーブ」の状態

就業者と求職活動者の割合を示す「労働力率」については、女性は 20 代と 40 代に比べて 30 代の女性の労働人口の割合が落ち込む「M 字カーブ」の状態が続いており、こうした女性たちや、潜在的な就業希望者も働けるようにすれば、女性の労働人口を現在の「2,770 万人」から「3,215 万人」に増やすことができるとされています。ワークライフバランスの推進など、女性の潜在力を活かす取組みが、ますます求められます。

## 「長期安定志向」の新入社員

### ◆約 500 人の新入社員が回答

産業能率大学では、新入社員の意識や将来の目標などに関するアンケートを実施し、「2010 年度 新入社員の会社生活調査」として発表しました。この調査は、1990 年から実施されているもので、今年度は 151 社 515 人を対象に実施し、505 人 (男性 360 人、女性 145 人) から有効回答を得て集計されています。

#### ◆将来の展望について

今年度の新入社員については、将来の進路として「管理職として部下を動かし、部門の業績向上の指揮を執る」という「管理職志向」の人が44.3%となり、「役職には就かず、担当業務エキスパートとして成果を上げる」という「専門職志向」の人の44.0%を初めて上回ったそうです。一方、「独立志向」は不人気で、過去最低の8.7%にとどまったそうです。また、「終身雇用制度を望むか」という質問では、「望む」人が71.1%で、過去最高だった前年度より2.4ポイント減少しました。「転職は挫折」と考える傾向が高いようです。

#### ◆「理想の年収」と「現実予想の年収」

35歳時点での理想の年収については、過去最低となった前年度の731万円をさらに下回り、723万円となりました。この質問は2000年度の調査から続いているのですが、その年と比較すると「1,000万円以上」の回答が大幅に減り、「600万円」という回答が大幅に増加しています。

また、現実を予想した年収も586万円を過去最低となっています。

#### ◆企業側としてどう考えるか

この調査結果を見てみると、今年度の新入社員は、勤め人として「ふつうの道」から外れることを不安視する傾向にあるようです。独立は考えず、同じ会社に長期勤務して、管理職を目指し、年収についても無難な金額を望んでいます。

会社側として考えると、長期安定志向の社員というのは、中長期的な視点で見れば「人材育成ができる」という利点もあるのではないのでしょうか。

### 男女の金銭感覚と最近のお小遣い事情

#### ◆男女の金銭感覚の違いは？

東京スター銀行では、株式会社アイシェアと共同で今年4月行った「男女の金銭感覚調査」の結果を発表しました。調査対象はネットユーザー男女1,275名で、非常に興味深い内容となっています。

#### ◆夫が妻にしてほしくない節約術

既婚男性に聞いた「奥様にしてほしくない節約術・やりくり」という質問(複数回答)では、上位1～3位は以下の結果となっています。

- (1)「スーパーのビニール袋を大量に持って帰る」(53.8%)
- (2)「よほど汚れてない限り、風呂の水は2回使う」(44.1%)
- (3)「1円でも安いものを探してスーパーをハシゴする」(39.3%)

#### ◆家計管理はどちらが行う？

また、未婚者に聞いた「将来結婚したら自分で家計を管理したいと思うか」という質問では、「自分で管理したい」「どちらかという自分で管理したい」を合わせた「管理したい」派の人は、男性61.2%、女性84.6%でした。未婚の男性が家計を自分で管理したい理由(複数回答)のトップは、「自分で家計をコントロールしたいから」(50.2%)。未婚の女性が自分で管理したい理由のトップは「相手に任せっきりにしてしまうと不安だから」(65.0%)という結果でした。

#### ◆毎月4万6,000円

「毎月の小遣い額」は4万6,000円でした。不況の影響か、前年よりも5,000円もダウンし、ダウンは3年連続です。なお、「理想の小遣い額」は6万1,300円となっています。毎月の小遣い額が最多だったのは1990年で、このときは7万6,000円でした。

#### ◆サラリーマンはワンコインランチ

昼食代に関する調査では、1食当たり500円で、まさに「ワンコインランチ」となっています。これは過去10年間の調査で最低の金額です。

#### ◆当事務所よりひとこと

現在、今月末の事務所移転準備もあり、バタバタとしています。良い機会なので、資料の仕分け人になります！資料も体もスリムになりたいと思います！！

弊所は、中小企業経営者の身近な相談役です！

人事労務管理・就業規則・社会保険・年金でお困りのことがございましたら、お気軽にご相談下さい。